

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名：

大阪精神医療センター 精神科専門医研修プログラム

- プログラム統括責任者：岩田 和彦

住 所：〒573-0022 大阪府枚方市宮之阪3丁目16-21

電話番号：072-847-3261

F A X：072-840-6206

E-mail：iwatak@opho.jp

- 専攻医の募集人数：(7) 人

- 応募方法：

下記の提出書類一式を「簡易書留」にて郵送してください。

- ① 採用願書 (様式を当センターのHPからダウンロード)
- ② 履歴書 (写真添付) (様式を当センターのHPからダウンロード)
- ③ 医師免許書 (写)
- ④ 保険医登録票 (写)
- ⑤ 大学卒業証書 (写) または 卒業証明書

(応募に必要な様式は、当センターHP (<http://pmc.opho.jp>) からダウンロード可能)

- ◆ 送付先 ◆

(地独) 大阪府立病院機構 大阪精神医療センター 事務局総務人事グループ専攻医募集担当あて
〒573-0022 大阪府枚方市宮之阪3丁目-16-21

(TEL : 072-847-3261 FAX : 072-840-6206)

- 採用判定方法：

- ・書類審査および面接によって選考します。
- ・面接日時については、応募者に個別に連絡します。

※ アドミッション・ポリシー

～ 私たちが求める「未来の精神医学を拓く」専攻医像 ～

大阪精神医療センターを基幹施設とするこの研修プログラムでは、精神医学を臨床医学、基礎医学、社会医学などの多様な側面から包括的に理解し実践できることが精神科専門医の使命であると考え、これからの時代の変化に対応しながら「未来の精神医学を拓く」ことに挑戦する専攻医を求めています。

精神医学は臨床医学の一分野にすぎませんが、対象は小児から高齢者まで幅広く、また急性期から慢性期まで長期間にわたる関わりを必要とする医学分野です。

治療は表面的に現れる精神症状を改善させれば済むというのではなく、症状を出現させる原因となった脳のメカニズムを探索する基礎医学的アプローチや、その人の暮らしや心の葛藤にも目を向け、言葉にならない心の声に耳を傾ける心理学的アプローチも必要となります。そのため精神医療では、生命科学としての医学の知識だけでなく、脳科学、心理学、社会科学、社会福祉、教育学、情報科学など様々な学問領域の知識・技術と、それらを活用する能力（コンピテンシー）が必要となり、おのずと専門職スタッフとチームを構成して医療を実践する場面が多くなります。

それ故、精神科医には、人に対する深い共感性と洞察力、そして心の病をもつ人とその家族に「寄り添う温かさ」が不可欠です。さらに多職種の専門スタッフを尊重し、協働しながら心の病からの回復（リカバリー）に取り組んでゆく指導力と包容力、高い倫理観が求められます。

また精神医学の進歩と発展に寄与することも専門医の大切な役割です。直接見ることができず、また数字にすることも難しい人の心のメカニズムを解き明かし、様々な精神疾患の病態を解明するための研究や、新しい診断法・治療法の開発のために不断の努力が求められます。このような医学研究の遂行には、真理を追求しようとする科学者としての情熱と忍耐力が必要です。

そして、研究や臨床実践の末に私たちがたどり着いた新しい知見と臨床技術を、ひとりの心の病をもつ人だけでなく、同じ苦しみを抱える多くの人たちの治療・支援に活かすための活動を起こすことも、私たち専門医の果たすべき責務です。そのために今日の地域精神医療が抱える諸問題や、わが国の精神保健福祉行政が今後担うべき役割は何なのか等、社会医学領域の課題を理解し解決する力も獲得しなくてはなりません。市民のメンタルヘルスの向上に資する取り組みに関与できる秀でた社会性と行政能力、幅広い国際性も、これからの精神医学には必要なのです。

これらを踏まえ、私たちは幅広い精神医学の臨床力を習得することに加えて、医学研究や医療行政にも関与できる、いわば“精神医学の総合医”を育成する専門医研修プログラムを計画しました。医学は高度に進歩したとはいえ、精神医学の分野には解明されていないことがたくさんあります。私たちは神秘的で謎に満ちた「脳と心（精神）」に深い関心を持ち、精神疾患をもつ人の回復に真摯に取り組む高い志と豊かな感性、柔軟な思考力、そして温かな心をもった専攻医と共に、この研修プログラムをすすめていきたいと願っています。

これから時代を生きる精神科医である「あなたの」未来を拓く専門医研修を通して、どうぞ「あなたが」精神医学の新しい未来を拓いて下さい。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念(全プログラム共通項目)

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命(全プログラム共通項目)

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

本研修プログラムの特色は、基礎医学～臨床医学～精神保健福祉行政まで、広くかつ深く見通すことのできる、精神医学の“総合医”を育成することにある。

精神医学の対象は小児から高齢者まで幅広く、また急性期から慢性期、そして社会復帰まで長期にわたる継続した治療と支援が必要である。さらに精神科臨床の実践には、臨床医学はもちろん、脳科学、心理学、社会科学、社会福祉など広範囲の学問領域が関与している。そのため常に多職種によるチーム医療の実践が求められるのも精神医学の特徴と言えるだろう。

このような精神科のもつ特色を踏まえ、公立精神科医療機関を基幹施設とし、その他に大学病院、総合病院、小児医療専門病院、精神保健福祉センターなど、得意分野の異なる8施設により研修施設群を構成し、基礎から臨床、そして行政まで研修できるプログラムを提供する。

II 本研修プログラムの研修施設群（基幹施設と連携施設群）

○ 研修基幹施設： 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪精神医療センター

- ・施設形態：公的精神科専門病院
- ・院長名：岩田 和彦
- ・プログラム統括責任者氏名：岩田 和彦
- ・指導責任者氏名：西倉 秀哉

(研修施設概要)

大阪府の公的医療機関として急性期から社会復帰まで、さらに小児から高齢者まで、様々な精神疾患の診療の最前線を担っている精神科医療機関である。

専攻医は主にスーパー救急病棟や急性期病棟で症例を担当し、精神科の基本診療技能を身に付ける。これらの病棟では多くの入院症例を経験でき、統合失調症圏や気分障害圏をはじめ多彩な病像の急性期症例を経験することができる。専攻医は、指導医とともに臨床現場の最前線に入

院治療に直接関与でき、さらに退院後も自らが外来で継続して治療できる体制を整えている。大阪精神医療センターでは精神障害をもつ人のアウトリーチ活動も積極的に実施しているので、訪問看護スタッフとともに担当症例の地域生活の現場を訪問し、生活面の支援にも関与しながら、地域精神医療の基本を研修することができる。

さらに医療観察法病棟や児童思春期病棟も有しており、希望によりこれらの専門領域の研修も可能である。難治性精神疾患に対しても、修正型電気けいれん療法やクロザピン治療などを積極的に行っており、これらの最先端の治療を学ぶ機会も十分にある。また、研究部門である「こころの科学リサーチセンター」では、大学との連携のもと、基礎研究や臨床研究にも関わりながら専門研修を行うことができる。

○連携施設 1：京都大学医学部附属病院

- ・施設形態：大学病院 精神科
- ・院長名：高折 晃史
- ・指導責任者氏名：久保田 学

(研修施設概要)

京都大学医学部附属病院の精神科病棟は 60 床を有し、大学病院としては最大規模の閉鎖病棟である。高度専門医療機関として、重症・難治性の統合失調症や気分障害の治療を研修でき、さらに摂食障害や高次脳機能障害など専門領域の診断・治療や、リエゾン・コンサルテーションなどを学ぶことができる。脳画像研究、精神療法、精神病理学、てんかんに関するセミナーや勉強会も定期的で開催されており、最先端の医学研究を経験できる。

○連携施設 2：大阪大学医学部附属病院

- ・施設形態：大学病院 精神科
- ・院長名：竹原 徹郎
- ・指導責任者氏名：高橋 隼

(研修施設概要)

大阪大学医学部附属病院は、1034 床を有する大学病院であり、精神科は 52 床を有している。うちわけは閉鎖病棟(38 症)、開放病棟(14 床)であり、別に隔離室(4 床)を保有している。閉鎖病棟内には体育館を併設しており、精神障害者の回復期レクリエーションや作業療法、認知症予防のための運動療法指導などに活用し、さらに季節の行事(運動会等)にも活用している。疾患は、難治性の統合失調症やうつ病、および認知症の精査および BPSD 治療などが中心となっている。難治性疾患に対してはクロザリル療法(統合失調症に対して)および修正型電気痙攣療法(主にうつ病に対して)を行っているため、これらを経験することができる。また、総合病院であるので、身体合併症および精神科合併症妊娠などについても対応しており、思春期症例、摂食障害なども経験することができる。措置入院も引き受けており、精神保健指定医の取得についてもサポートしている。さらに当院では神経心理検査、脳機能画像およびバイオマー

カーを用いた認知症診断を行っており、実践的な認知症診断学を学ぶことができる。

○連携施設 3：地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター

- ・施設形態：公的総合病院 心療科
- ・総長名：松浦 成昭
- ・指導責任者氏名：和田 信

(研修施設概要)

大阪国際がんセンターは、癌および循環器疾患専門の公的医療施設である。ここでの研修は心療・緩和科において、主に癌患者に生じる精神障害および精神症状について学ぶ。病棟および外来での緩和ケア診療を通じて、身体科との連携や地域の医療機関との連携などについて経験を積むことが可能である。

専攻医は身体疾患に伴うリエゾン・コンサルテーション精神医学の基礎となる知識と技術を習得し、緩和ケアチームにおける多職種協働に必要な技能を習得できる。

○連携施設 4：市立ひらかた病院

- ・施設形態：公立総合病院 精神科
- ・院長名：林 道廣
- ・指導責任者氏名：齋藤 円

(研修施設概要)

市立ひらかた病院は、基幹研修施設である大阪精神医療センターの位置する枚方市（人口 41 万人）と近隣市を含めた北河内医療圏唯一の公立総合病院である。地域の中核病院であり、2 次救急指定医療機関として急性期医療を中心として、災害拠点病院としての機能が充実している。また、緩和ケア病棟を併設し、大阪府がん診療拠点病院としてがん診療の充実も図っている。

身体疾患に伴うリエゾン・コンサルテーション精神医学を学ぶとともに、緩和ケアチームや認知症ケアチームにおける多職種チームの職務、周産期メンタルヘルスなどを学ぶことができる。

○連携施設 5：大阪府こころの健康総合センター

- ・施設形態：精神保健福祉センター（大阪府）
- ・センター長：平山 照美
- ・指導責任者氏名：平山 照美

(研修施設概要)

大阪府こころの健康総合センターは精神保健福祉法に規定された精神保健福祉センターであり、大阪府の精神保健福祉行政の中核を担っている。ここでの研修では、まず保健所、市町村、社会復帰関連機関の役割を知り、それらの機関とネットワークを構築する重要性とその方法を学ぶ。

また、発達障害、自死遺族、依存症などの専門相談事業を通じて精神科医療機関とは異なるアプローチで心の健康を守る仕事を体験することができる。さらに、精神医療審査会や精神科病院の実地指導に同行することを通じて、今日のわが国の精神医療の抱える問題点と、将来に向けた課題を学ぶ貴重な機会を得ることができる。

○連携施設 6：地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター

- ・施設形態：公的小児周産期専門医療機関（子どものこころの診療科）
- ・総長名：倉智 博久
- ・指導責任者氏名：平山 哲

（研修施設概要）

大阪母子医療センターは、総合周産期母子医療センターとして大阪府における様々な周産期小児医療の中心を担う公的医療機関である。WHO 指定研究協力センター、小児救命救急センター指定医療機関、大阪府小児がん診療拠点病院であるなど、小児期から周産期においてリエゾン・コンサルテーション精神医学として関わる範囲が非常に多岐に渡っているのが特徴的である。

当センターでの研修は、子どものこころの診療科（児童精神科）で行われる。外来診療では発達障害がいを中心として小児期の発達期における精神疾患群の診療を経験できる。専用入院病床はないものの、リエゾンもしくはコンサルテーション形式で小児期の身体合併症への対応、摂食障害や高次脳機能障害への対応などが学べる。また小児期では虐待とその関連疾患について、病院内のみならず地域行政機関や自治体との協業・連携を学べる。リエゾン・コンサルテーション精神医学を学び、関係機関も含めた多職種チームでの業務を経験することができる。

○連携施設 7：東京都立松沢病院

- ・施設形態：公的精神科専門病院
- ・院長名：水野 雅文
- ・指導責任者氏名：正木 秀和

（研修施設概要）

東京都立松沢病院は東京都世田谷区に位置し、東京都の精神科領域における政策医療の中核的な役割を担っている精神科病院である。800床の精神科病床を有し、精神科医が約40名在籍しており、公的精神科単科医療機関ではわが国でトップクラスの規模を誇る。さらに内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科などの身体科の医師が約25名在籍し、身体合併症入院病床も有していることから、精神疾患を有する症例の身体合併症治療についても研修を受けることができる。

精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、青年期医療、認知症医療、アルコール・薬物医療、医療観察法病棟の他、デイケア、精神科作業療法等を行っている。精神科領域のほとんどの疾患を経験することができ、措置入院や医療観察法入院を含め、すべての入院形態の症例を扱っている。

○連携施設 8：岡山県精神科医療センター

- ・施設形態：公的精神科専門病院
- ・院長名：來住 由樹
- ・指導責任者氏名：児玉 匡史

（研修施設概要）

岡山県精神科医療センターは、255 床を有する岡山県の精神医療のセンター機能を担う公的精神科病院である。24 時間 365 日の精神科救急、「断らない医療」を実践している。児童から高齢者まで全ての年代の精神的危機に対応しており、幅広い領域の精神疾患の診断と治療を経験し、知識と技術を身につけることができる。

○連携施設 9：地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター

- ・施設形態：公的総合病院 精神科
- ・総長名：嶋津 岳士
- ・指導責任者氏名：松田 康裕

（研修施設概要）

大阪急性期・総合医療センター精神科は、身体合併症を有する精神疾患患者の入院・外来診療を行っている。診療の特色として、自殺未遂等で救命救急センターに搬送された方、精神科病院で対応困難な身体疾患を合併した方、精神疾患をもつ妊婦の方などを中心に受け入れている。精神疾患は統合失調症、気分障害、薬物関連障害、器質性精神障害、認知症、知的障害、発達障害など多岐にわたり、リエゾン・コンサルテーション精神医学の最前線を経験することができる。

○連携施設 10：九州大学病院

- ・施設形態：大学病院精神科
- ・院長名：中村 雅史
- ・指導責任者氏名：村山 桂太郎

（研修施設概要）

九州大学病院精神科は、精神科診療・診断学、薬物療法学、各種精神療法（行動療法・力動精神療法）、生物学的精神医学、精神病理学、児童精神医学、老年精神医学、てんかん、リエゾン精神医学、社会精神医学、司法精神医学など、精神医学の幅広くかつ高度の専門性を習得することを目標としている。教室には、これらの専門性を有する指導教員・研究室が揃っている。また各種専門性を有する教育関連施設と緊密な連携体制を有しており、専攻医は教室ならびに教育関連施設において、高度の専門性を習得することができる。

○連携施設 11：大阪医科薬科大学病院

(2025年4月から連携予定)

- ・施設形態：大学病院精神科
- ・院長名：勝間田 敬弘
- ・指導責任者氏名：金沢 徹文

(研修施設概要)

大阪医科薬科大学病院精神科は、大学病院精神科として40床のベッド数を有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。また3次救急施設が院内に存在することから自殺企図などの急性期身体疾患を併存する精神疾患の治療も担うこととなる。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護・心理・リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法、クロザピン療法などの治療を柔軟に組み合わせ、最善の治療を行っていく。

Ⅲ. 研修目標とローテーションパターン

※ カリキュラム・ポリシー

～「未来の精神医学を拓く」医師になるプロセス～

公立精神科医療機関の大阪精神医療センターが提供する研修プログラムは、基礎医学から精神保健福祉行政まで熟知した“精神医学の総合医”になるために必要な、偏りのない広範な知識と能力を獲得することをポリシーとしている。

そのために、「最前線の臨床現場」でたくさんの症例の治療を直接担当しながら、「最先端の精神医学」を学ぶようにカリキュラムが計画されている。

まず専攻医研修マニュアルに定められた13の研修領域(1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理)を、基幹施設・連携施設をローテーションしながら余すところなく網羅的に学ぶことができる研修プログラムを提供する。

それに加えて自らが関心を持ち、より深く学びたいと希望する領域(サブスペシャリティ)についても、じっくり学習できるよう、専攻医ひとりひとりのニーズに合わせたテーラーメイドの研修施設ローテーションスケジュールを作り上げていく。

さらに専門医として必要不可欠な医学研究に対するリサーチマインドを早期から涵養するために、基幹施設(大阪精神医療センター)の研究部門(こころの科学リサーチセンター)での研究の実際に携わる機会も提供する。さらに連携施設である大学病院でも、最先端の精神医学研究に実際に関与することを推奨している。研修期間中は、上級医の指導のもと1回以上の学会発表と、可能ならば論文を発表することを目指す。

1) 年次到達目標

※ 1年目到達目標：

主に基幹施設で研修を行う。基幹施設では若手医師による屋根瓦方式の学習と上級医による指導を組み合わせ、統合失調症、気分障害、認知症、依存症、神経症性障害等の入院症例を受け持ち、精神科面接の基本、診断と治療計画の考え方、薬物療法や精神療法・心理社会的治療の基本を学ぶ。

入院症例に関しては、主に急性期症例を担当し、様々な精神疾患の急性期症状に対する治療介入の経験を積んでいく。担当症例が退院した後は、指導医とともに外来で継続的に治療に関与し、再発を防ぎ地域定着を支援する意義と方略を学ぶ。訪問看護にも積極的に同行し、退院後の地域生活支援の実際も経験する。

毎週行われる医局ケースカンファレンスは、症例の治療経過をまとめプレゼンテーションする力を付ける重要な機会であるとともに、診断や治療を決定するための考え方をトレーニングする場でもある。また多職種ケースカンファレンスでは、医師以外の専門職との協働や地域の関係機関スタッフと連携するために必要なスキルを、実践を通じて身につける。

※ 2年目到達目標

基幹施設または連携施設で研修を行う。入院症例・外来症例ともに自立して診療する時間を増やし、精神科診断面接および治療面接の技術を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、さらに薬物療法や心理社会的治療に対する知識とスキルを深める。2年目以降は児童思春期症例や身体合併症症例などの治療にも関わる機会を提供するが、そのために必要な研修会や学術集会等に参加する機会を保障する。

連携施設の総合病院や大学病院では、リエゾン・コンサルテーション精神医学や緩和ケア等の基礎を学ぶ。さらに最新の画像診断や、クロザピン治療や修正型電気けいれん療法など、薬物療法抵抗性の難治性症例に対する治療の基礎についても学ぶ。また、2年目には少なくとも地方会レベルの学会（近畿精神神経学会など）で発表することを目指す。

※ 3年目到達目標

3年目も基幹施設または連携施設で研修を行う。研修施設の選択は、専攻医のそれまでの経験や希望をふまえて決定する。基幹施設では希望に応じて医療観察法病棟で司法精神医学の実際に関与したり、児童思春期病棟で発達障害のケースを担当するなど、より専門的な領域を経験することもできる。また連携施設の精神保健福祉センターでは、病院では経験できない精神医療審査会や精神科医療機関の現地指導など、精神保健福祉行政の実際を経験することができる。これらの経験は地域精神医療の現状を、臨床とは異なる角度から見つめ直すことができる貴重な機会となる。大学病院においては、脳機能画像研究や神経化学研究、神経心理学研究等の研究グループに参画し、最先端の脳科学研究を学習する機会を得る。

3年目は専門医研修の区切りとなる年次であるため、日本精神神経学会をはじめとする全国規模の学術集会に参加してこれまでの成果を発表し、さらに成果を学術論文としてまとめ専門雑誌に投稿することを目指す。

2) ローテーションパターン

本研修プログラムにおける研修期間中のローテーションは、1年目は主に基幹施設の大阪精神医療センターで研修を行い、2年目以降は、専攻医の意向をもとに基幹施設、連携施設をローテーションする研修スケジュールとなる。研修施設の組み合わせは、様々なパターンが可能であり、想定されるいくつかのローテーションモデルを例示する。

◎ 大阪精神医療センター 精神科専門研修プログラム

	専攻医 1年目	専攻医 2年目	専攻医 3年目
A	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年	大学病院 (大阪大学、京都大学、九州大学、大阪医大のいずれか) ※研修期間:1年	大阪国際がんセンター 又は 市立ひらかた病院 ※研修期間:1年
B	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年	大学病院 (大阪大学、京都大学、九州大学、大阪医大のいずれか) ※研修期間:1年	大阪府こころの健康総合センター 又は 大阪母子医療センター ※研修期間:1年
C	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年	大阪急性期総合医療センター 又は 大阪国際がんセンター ※研修期間:1年	大学病院 (大阪大学、京都大学、九州大学、大阪医大のいずれか) ※研修期間:1年
D	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年6か月	大阪急性期総合医療センター 又は 大阪国際がんセンター ※研修期間:6か月	大学病院 (大阪大学、京都大学、九州大学、大阪医大のいずれか) ※研修期間:1年
E	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年6か月	大阪府こころの健康総合センター 又は 大阪母子医療センター ※研修期間:6か月	大学病院 (大阪大学、京都大学、九州大学、大阪医大のいずれか) ※研修期間:1年
F	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年	大学病院 (大阪大学、京都大学、九州大学、大阪医大のいずれか) ※研修期間:1年	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年
G	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年	大阪国際がんセンター 又は 市立ひらかた病院 ※研修期間:1年	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年
H	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年	大阪府こころの健康総合センター 又は 大阪母子医療センター ※研修期間:1年	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年
I	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年	大阪急性期総合医療センター 又は 大阪国際がんセンター ※研修期間:1年	東京都立松沢病院 又は 岡山県精神科医療センター ※研修期間:1年
J	大阪精神医療センター ※基幹施設 ※研修期間:1年	大阪母子医療センター 又は 市立ひらかた病院 ※研修期間:1年	東京都立松沢病院 又は 岡山県精神科医療センター ※研修期間:1年

※ 2年目・3年目の複数の連携施設が記載されている箇所は、いずれかの1つの病院を選択し、6ヶ月～1年の研修を受ける

IV. 研修の評価・管理体制など

1) プログラム管理体制について

- ・プログラム管理委員会
 - 医師：岩田 和彦（委員長）
 - 医師：笹田 徹
 - 医師：岩瀬 真生
 - 医師：西倉 秀哉
 - 医師：花房 昌美（副委員長）
 - 看護師：稲田 由美子
 - 薬剤師：四方 佳美
 - 臨床心理士：田中 さやか
 - 各連携施設の指導担当責任者
- ・プログラム統括責任者
岩田 和彦（大阪精神医療センター）
（副プログラム統括責任者：花房昌美（大阪精神医療センター））

2) 評価について

<評価体制>

基幹施設・各連携施設の評価責任者

- ・基幹施設：大阪精神医療センター 岩田 和彦
- ・連携施設 1：京都大学医学部附属病院 久保田 学
- ・連携施設 2：大阪大学医学部附属病院 鐘本 英輝
- ・連携施設 3：大阪国際がんセンター 和田 信
- ・連携施設 4：市立ひらかた病院 齋藤 円
- ・連携施設 5：大阪府こころの健康総合センター 平山 照美
- ・連携施設 6：大阪母子医療センター 平山 哲
- ・連携施設 7：東京都立松沢病院 正木 秀和
- ・連携施設 8：岡山県精神科医療センター 児玉 匡史
- ・連携施設 9：大阪急性期・総合医療センター 松田 康裕
- ・連携施設 10：九州大学病院 村山 桂太郎
- ・連携施設 11：大阪医科薬科大学病院 金沢 徹文

*各専攻医の研修期間中の評価の最終決定は、上記の基幹施設・連携施設の研修プログラム担当者によって行われ、指導内容等は研修記録簿に記載し、専攻医と指導医の間で情報を共有する。

*評価の過程は、専攻医とともに業務に従事した上級医師だけでなく、可能な限りコメディカルスタッフも加わった合議体により行う。その際の構成メンバーは各研修施設に委ねる。

※ ディプロマ・ポリシー

～ 専門医研修プログラム修了時に専攻医に求められること ～

研修プログラム指導者との定期的な面談・評価を活かしながら所定の期間の研修を進め、最終的に研修修了認定の時点において、以下の要件を満たすことが専攻医に求められる。

1. 専門医研修期間中に、前述のカリキュラム・ポリシーおよび専攻医研修マニュアルに記した 13 の研修領域(1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理)を修練していること。
2. 基幹施設といくつかの連携施設で研修を積み、専攻医研修マニュアルに示された、統合失調症や気分障害など経験すべき疾患・病態、および経験すべき診察・検査をすべて研修していること
3. 精神科専門医として経験すべき治療場面(精神科救急、行動制限、地域医療・地域生活支援、リエゾン・コンサルテーションなど)を経験し、さらに入院症例においては、任意入院と非自発的入院症例を指導医とともに担当していること
4. 各研修施設において、ケースカンファレンスや勉強会に参加し、さらに筆頭演者として精神科領域の学会発表を 1 回以上行っていること。また可能ならば精神科専門誌への論文発表や臨床研究に参画した機会があること。
5. 専門医研修修了時に以上の要件を満たし、精神科専門医にふさわしい知識と技能、そして倫理観を有し、「未来の精神医療を拓く」ことに十分に貢献できる水準に達していると判断されること。

3) 専攻医の労務管理体制

※ 専攻医の就業環境の整備 (労務管理)

各研修施設の就業規則に準拠して、労務管理を行う。

基幹施設の主要な労働条件は以下の通り

- *勤務：午前 9：00～午後 5：30 (休憩 45 分)
- *当直：午後 5：30～翌午前 9：00
- *休日：土曜日・日曜日・国民の祝日
- *年次休暇・夏期特別休暇などは就業規則の規定に基づき付与する
- *出張：日本精神神経学会など研修上必要と判断された学会や研修会への参加は原則出張扱いとする。

※ 専攻医の心身の健康管理

各研修施設の安全衛生管理規定に基づき、健康診断を実施する。

各専攻医を担当するメンターは、適宜本人と面談を行い、心身の異常を早期に発見するように努める。

V. 研修施設別 週間・年間スケジュール

1. 基幹施設：大阪精神医療センター

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土・日
9:00 ～ 12:00	・病棟回診 ・スーパー救急病棟ケースカンファレンス	・m-ECT ・外来初診インテーク	・病棟回診 ・医療観察法病棟カンファレンス	・外来初診インテーク	・m-ECT ・病棟回診 ・医局ケースカンファ（外来）	・当直業務／外部の研究会・研修など（適宜）
13:00 ～ 17:00	・上級医外来診療陪席	・病棟回診	・上級医外来診療陪席	・病棟回診	・スーパー救急病棟ケースカンファ	
17:00 ～	・児童思春期ケースカンファ ・医局会（隔週）		・医局ケースカンファ（入院）			

※年間スケジュール

4月	オリエンテーション 新規採用者研修
5月	包括的暴力防止プログラム（CVPPP）研修（4日間） 院内第1回医療安全研修
6月	日本精神神経学会学術集会参加 日本司法精神医学会参加（任意） 日本老年精神医学会（任意）
7月	近畿精神神経学会参加
8月	院内トピックス研修（内容は各年度当初に決定） 日本うつ病学会参加（任意）
9月	臨床研究基礎セミナー 臨床研修評価面談（中間）
10月	臨床研究基礎セミナー 日本精神科救急学会（任意） 日本児童青年精神医学会（任意）
11月	院内第2回医療安全研修
12月	日本精神障害者リハビリテーション学会（任意）
1月	院内トピックス研修

2月	近畿精神神経学会参加 院内研究交流発表会（2日間）
3月	日本統合失調症学会（任意） 日本社会精神医学会（任意） 臨床研修評価面談（年度末）
その他	認知行動療法、依存症、認知症など、専攻医のニーズに合わせて外部の研修会に適宜参加する機会を確保する

2. 連携施設 1 : 京都大学医学部附属病院

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟業務、 多職種カンファ レンス	病棟業務	病棟業務、 摂食障害カンフ アレンス	病棟業務	初診外来予 診	当番制で オンコール	当番制で オンコール
午後	病棟業務、 発達障害カンフ アレンス、 電気けいれん 療法	病棟業務 リエゾン	病棟業務、 リエゾン、 リサーチミーテ ィング	病棟業務、 リエゾン	病棟業務、 リエゾン、 電気けいれん 療法	当番制で オンコール	当番制で オンコール 精神病理 研究会
夕方	症例検討会、 精神病理学勉 強会（月1回）		医局会、 退院患者報告、 医局セミナー	動機づけ面 接勉強会（月 1回）	脳波レクチャ ー（月1回）	当番制で オンコール	当番制で オンコール

※年間スケジュール

4月	オリエンテーション 研修開始
5月	教室研究会参加
6月	日本精神神経学会総会参加
7月	近畿精神神経学会参加・発表 研修プログラム管理委員会開催
8月	教室主催研修会「夏のセミナー」
9月	教室研究会参加
10月	1年目、2年目、3年目 研修中間報告書提出
11月	総合病院精神医学会参加（任意）

12月	教室研究会参加
1月	教室研究会参加
2月	近畿精神神経学会参加・発表
3月	年度末面談 指導実績報告提出

3. 連携施設 2 : 大阪大学医学部附属病院

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土・日
午前		m-ECT			m-ECT	
午後	14:00 ケースカンファレンス 15:30 病棟回診 17:30 医局会	14:00 リエゾン回診		週間サマリー作成 16:30 児童思春期カンファレンス	13:30 認知症回診	
夜	論文抄読 (psychiatrysalon)				宿直 (平日いずれか月2回)	

このほかに毎日病棟業務、外来業務、リエゾン業務を行う

※年間スケジュール

4月	オリエンテーション	
5月		
6月	精神医学講義 ・火曜日 14:00-16:00 ・木曜日 15:00-16:00	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会 参加(任意) 和風会精神医学研究会参加
7月	・金曜日 16:00-17:00	近畿精神神経学会参加 夏季休暇取得可能期間(7月~9月)
8月		
9月		和風会講演会参加
10月		
11月		和風会総会(特別講演)参加

12月		
1月		
2月		近畿精神神経学会参加
3月	研修総括評価 研修プログラム評価報告書の作成	和風会講演会参加

4. 連携施設 3 : 大阪国際がんセンター

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
9:00 ～ 12:00	・モーニングカンファ	・モーニングカンファ	・モーニングカンファ	・モーニングカンファ 上級医外来診療陪席	・モーニングカンファ		
13:00 ～ 17:30	・上級医外来診療陪席 ・外来初診インテーク	・病棟回診	緩和ケアチームカンファ ・回診	・上級医外来診療陪席 ・外来初診インテーク	・病棟回診	・外部の研究会・研修会 (適宜)	・外部の研究会・研修会 (適宜)
17:30 ～		・チュートリアル		18:30～19:30 多地点合同症例検討会 (隔週)			

※年間スケジュール

4月	オリエンテーション 新規採用者研修
5月	日本緩和医療学会・日本サイコオンコロジー学会合同学術大会参加(任意)
6月	日本精神神経学会学術集会参加(任意)
7月	院内緩和ケア研修会参加(任意)
8月	
9月	臨床研修評価面談(中間)
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	

3月	臨床研修評価面談（年度末）
その他	適宜専攻医のニーズに合わせて外部の研修会に参加する機会を確保する

5. 連携施設4：市立ひらかた病院

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前 (8:30 ~ 12:00)	・モーニングカンファ ・リエゾン回診	・モーニングカンファ ・外来診察 (予診、指導医診察陪席)	・モーニングカンファ ・リエゾン回診	・モーニングカンファ ・リエゾン回診	・モーニングカンファ ・外来診察(予診、継続症例診察、指導医診察陪席)
午後 (13:00 ~ 17:00)	・リエゾン回診 ・緩和ケアチーム回診 ・緩和ケアチーム会カンファ	・リエゾン回診 ・周産期精神科合同カンファ	・緩和ケア病棟精神科カンファ・デスクカンファ ・認知症ケアチームカンファ	・リエゾン回診	・リエゾン回診

※年間スケジュール

4月	オリエンテーション 新規採用者研修
5月	
6月	日本精神神経学会学術集会参加(任意) 日本緩和医療学会参加(任意) / 緩和ケア研修会(任意)
7月	
8月	
9月	日本サイコオンコロジー学会参加(任意)
10月	
11月	日本総合病院精神医学会学術総会(任意)
12月	
1月	
2月	
3月	院内 TQM 発表会 / 認知症研修会

6. 連携施設 5 : 大阪府こころの健康総合センター

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00 ～12:15	・ 専門相談	・ インテーク会議	・ 専門相談	・ 専門相談	・ 調査研究
13:00 ～17:30	・ 精神障害者保健 福祉手帳審査会	・ 依存症家族支援 プログラム ・ 依存症当事者プ ログラム	・ 専門相談	・ 自立支援医療 (精神通院) 審査 会	・ 療養環境検討 協議会 (隔月)
通年 (不定期)	・ 措置診察業務 ・ 精神科病院実地指導	・ 精神医療審査会業務 ・ 事例検討会			

※年間スケジュール

4月	オリエンテーション新任・転任研修
5月	近畿公衆衛生学会 (任意)
6月	日本精神神経学会学術集会参加 期初面談
7月	近畿精神神経学会
8月	
9月	臨床研修評価面談 (中間)
10月	日本児童青年精神医学会 (任意) 日本公衆衛生学会 (任意)
11月	
12月	精神科病院実地指導 同行
1月	精神科病院実地指導 同行
2月	近畿精神神経学会
3月	臨床研修評価面談 (年度末)
その他	専攻医のニーズに合わせて外部の研修会に適宜参加する機会を確保する

7. 連携施設 6 : 大阪母子医療センター

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00 ～12:15	・ 上級医外来 診療陪席	・ 外来初診イン テーク	・ 外来初診インテ ーク ・ 上級医外来診療	・ モーニングカン ファレンス	・ 上級医外 来診療陪席

			陪席		
13:00 ～17:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上級医外来診療陪席 ・ 発達外来カンファレンス ・ PICU 心理カンファレンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来初診インテーク ・ リエゾン回診 ・ 緩和ケアチームカンファレンス ・ 虐待ケース会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上級医外来診療陪席 ・ 緩和ケアチームケース会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リエゾン回診 ・ 虐待対応総合会議 ・ 幼児病棟心理カンファレンス ・ 循環器心理カンファレンス ・ 性分化疾患心理カンファレンス ・ 移行期医療カンファレンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上級医外来診療陪席
通年（不定期）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児緩和ケア研修会（年10回） ・ 虐待ネットワーク会議等 				

※年間スケジュール

4月	オリエンテーション・新規採用者研修
5月	院内医療安全研修
6月	日本精神神経学会学術集会参加（任意） 日本緩和医療学会参加（任意）
7月	日本子ども虐待医学会参加（任意）
8月	
9月	日本サイコオンコロジー学会参加（任意） 臨床研修評価面談（中間）
10月	日本児童青年精神医学会（任意）
11月	
12月	日本子ども虐待防止学会（任意） 日本総合病院精神医学会学術総会（任意）
1月	
2月	
3月	臨床研修評価面談（年度末）
その他	専攻医のニーズに合わせて外部の研修会に適宜参加する機会を確保する

8. 連携施設 7： 東京都立松沢病院

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金
830~930	病棟ミーティング 病棟回診	病棟ミーティング 病棟回診	病棟ミーティング 病棟回診	病棟ミーティング 病棟回診	病棟ミーティング 病棟回診

930~1200	病棟業務	外来初診	病棟業務	病棟業務	病棟業務
1200~1300	クルスス				
1330~1700	病棟業務 病棟カンファレンス	病棟業務	病棟業務	外来再診	病棟業務
	1630~1730 ケースカンファレンス	1700~1730 医局会			1630~1730 外来カンファレンス
1800~2030		集談会・講演 会(月1回)			

※年間スケジュール

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始・2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	東京精神医学会学術集会参加(任意)
8月	
9月	日本生物学的精神医学会年会(任意)
10月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会年会(任意)
11月	日本総合病院精神医学会総会参加(任意) 東京精神医学会学術集会参加(任意)
12月	
1月	
2月	2年目専攻生東京医師アカデミー研究発表
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成 東京精神医学会学術集会参加(任意)

9. 連携施設 8 : 岡山県精神科医療センター

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金
7:30 ~8:30					輪読会
8:30 ~9:00	病棟申送り カンファ	病棟申送り カンファ	病棟申送り カンファ	病棟申送り カンファ	病棟申送り カンファ
9:00 ~9:30	入退院カンファ ベットコントロ ール・カンファ	入退院カンファ ベットコントロー ール・カンファ	入退院カンファ ベットコントロー ール・カンファ	入退院カンファ ベットコントロ ール・カンファ	入退院カンファ ベットコントロー ール・カンファ
午前	病棟業務	病棟業務	病棟業務	ECT	病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務	外来業務	13-16 病棟別カンファ	病棟業務
	17-18 新規入院症例 検討			病棟業務	
17:15 以降			18-19(隔週) 脳波勉強会	18-19 抄読会 症例検討会	
			19- 医局会		

※年間スケジュール

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 / SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出・エッセンスカンファレンス
5月	エッセンスカンファレンス
6月	日本精神神経学会学術総会参加 研修プログラム管理委員会開催 アルコール依存症臨床医等研修 テーマ別カンファレンス
7月	依存症研修会 テーマ別カンファレンス
8月	認知行動療法研修 デイケア・訪問往診等地域医療研修会 テーマ別カンファレンス
9月	研究倫理講習会 クロザピン治療研究会 テーマ別カンファレンス
10月	SR1・2・3研修中間報告書提出 児童思春期精神医学研修会 テーマ別カンファレンス
11月	マトリックスモデル研修会

	うつ病の認知療法・認知行動療法ワークショップ テーマ別カンファレンス
12月	研修プログラム管理委員会開催 司法精神医学研修 テーマ別カンファレンス
1月	児童虐待支援者研修会 テーマ別カンファレンス
2月	動機付け面接研修会 研究倫理講習会 テーマ別カンファレンス
3月	SR1・2・3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 認知行動療法研修 テーマ別カンファレンス
その他	精神科関連の学会、国立精神神経医療研究センターでの研修会等を通じた研修を積極的におこなう。

10. 連携施設 9 : 大阪急性期・総合医療センター

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務 リエゾン回診	病棟業務 緊急当番	病棟業務 緊急当番	病棟業務 リエゾン回診	病棟業務 リエゾン回診
午後	病棟業務 リエゾン回診 行動制限 カンファレンス	病棟業務 緊急当番 緩和ケアカンファ レンス	病棟業務 緊急当番 認知症ケアチーム カンファ	病棟業務 リエゾン回診 ケースカンファ レンス 勉強会	病棟業務 リエゾン回診

※年間スケジュール

4月	
5月	大阪総合病院精神医学研究会参加(任意)

6月		日本精神神経学会学術総会参加(任意)
7月	緩和ケア研修会 参加(任意)	近畿精神神経学会参加(任意)
		有床総合病院精神科フォーラム参加(任意)
8月		
9月		
10月		
11月		日本総合病院精神医学会参加(任意)
12月		
1月		
2月		近畿精神神経学会参加(任意)
3月		

11. 連携施設 10 : 九州大学病院

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30~9:30	病棟業務	病棟カンファ 抄読会	病棟業務	外来予診 リエゾン	病棟業務
9:30~12:00	病棟業務	リエゾン	病棟業務	外来予診 リエゾン	病棟業務
13:00~16:00	病棟業務 病棟医長回診 チームカンファ	病棟業務	病棟業務 論文輪読会	教授回診 医局会 抄読会	病棟業務
16:00~17:15	行動療法カン ファレンス	病棟業務	精神分析セミ ナー	精神医学セミ ナー(不定期)	病棟業務

※年間スケジュール

4月	オリエンテーション、SR1 研修開始、SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出、研修医グラウンドラウンド(毎月開催)
5月	教室研究会参加、福岡精神科集談会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加、日本老年医学会参加(任意)

7月	日本うつ病学会参加(任意)
8月	九州地区 11 大学合同研修会
9月	福岡精神科集談会参加、日本生物学的精神医学会参加(任意)
10月	SR1・2・3研修中間報告書提出、教室研究会参加、日本児童青年医学会参加(任意)、日本認知・行動療法学会参加(任意)
11月	九州精神神経学会参加・演題発表、日本認知症学会(任意)
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	福岡精神科集談会参加
2月	日本不安症学会参加(任意)
3月	SR1・2・3研修報告書、研修プログラム評価報告書の作成、日本統合失調症学会(任意)

*その他、医師会が開催する「医療倫理」「感染対策」「医療安全」の各研修に参加する

12. 連携施設 11 : 大阪医科薬科大学病院

(2025年4月から連携予定)

※週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土(第1.3.5)
午前	ECT 朝の会・ 入院報告 教授回診	外来業務 (リエゾン含)	ECT 外来業務 (リエゾン含)	ECT 外来業務 (リエゾン含)	外来業務 (リエゾン含) 物忘れ外来 見学(任意)	外来業務 (リエゾン含)
午後	病棟患者 カンファレンス	病棟業務 ジェンダー外来 見学(任意)	病棟業務 緩和ケアチーム カンファレンス 集団精神療法	病棟業務 物忘れ外来 見学(任意)	病棟業務 思春期外来 見学(任意)	病棟業務
17:00 以降	医局会 研究室勉強会			思春期勉強会	認知症勉強会	

※年間スケジュール

4月	オリエンテーション シニアレジデント1年目 研修開始 シニアレジデント2、3年目 前年度研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
----	--

5月	同門学術総会参加
6月	日本精神神経学会参加・発表 二大学(関西医科大学と合同開催)研究会参加・発表 日本老年精神医学会参加(任意)
7月	近畿精神神経学会参加・発表 日本うつ病学会参加(任意)
8月	躁うつ病の薬理・生化学的研究懇話会参加(任意)
9月	日本生物学的精神医学会参加(任意)
10月	シニアレジデント1、2、3年目研修中間報告書提出 世界精神科遺伝会議参加(任意) 日本児童青年医学会参加(任意) 急性精神病フォーラム参加(任意) 日本てんかん学会参加(任意)
11月	日本臨床精神神経薬理学会(任意) 日本総合病院精神医学会(任意)
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	新春同門学術総会参加
2月	近畿精神神経学会参加・発表
3月	シニアレジデント1、2、3年目研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

